平成18年度中学生海外派遣事業

今回で10回目となる中学生海外派遣事業が、8月17日（木）から23日（水）までの7日間の日程で実施されました。

この事業はホームステイや現地中学生との交流を通して、世界に目を向ける広い視野を持った生徒を育てることを目的としています。

今回は市内の中学2年生22名が参加し、オーストラリアのシドニーを訪問しました。引率した国分寺中学校の山崎教頭先生に今回の旅を振り返ってもらいました。

中学生海外派遣事業を振り返って

引率者　下野市立国分寺中学校教頭　山崎秀男

下野市の中学二年生22名とオーストラリアのシドニーを訪ねてきました。事前研修を重ねて派遣の日を迎えましたが、わくわくとドキドキが交錯する7日間でした。

■市内見学

9時間のフライトを経て、早朝のシドニー空港に到着。眠い目をこすりながら入国審査。ロビーを見渡し海外に来たことを実感。まずは市内見学。ボンダイビーチ、ハーバーブリッジ、オペラハウス。絵はがきのような風景の中で異国情緒を十分楽しみました。

■ホームステイ

どんな人が迎えてくれるのか？不安な気持ちでホストファミリーを待つ。2人ペアでのホームステイなので少し心強い。迎えが来て、1組2組と各家庭へと案内されていく。見送る私たちは、「がんばって！」と祈るばかり。4日間のホームステイがはじまる。

■現地中学校訪問

今回の派遣事業のもう一つの目玉が、カーリングフォード・ハイスクールの訪問とそこでの交流。チャイニーズとコリアを中心としたアジア系が過半数を占める高校。容姿だけ見ると日本の高校と変わらない。

歓迎セレモニー・自己紹介・書道の実演など交流がはじまる。最初はうまくコミュニケーションがとれない。それでもがんばって、英語と日本語で意思疎通を図る。短時間でこんなに仲良くなってしまう。さすがに若いということは、すばらしい。

卓球やバスケットボールで汗を流し、ハンバーガーを一緒にほおばる。やっとうちとけ会話が弾んできたところで、別れの時間。見えなくなるまで手を振り見送ってくださった先生や生徒さんに感謝。

交流で書道を実演

■帰国の途に

帰りの機内。みんなぐっすり夢心地。思い出をいっぱい抱えて我が家に還る。家族のありがたさに気づいたこの子たちは、どんな顔で「ただいま」を言うのだろうか。

今回の貴重な体験を通して、派遣生徒は何かを感じてくれたと思います。その何かを大切にして、さらに大きく育てていってほしいと思います。

オペラハウスをバックに記念撮影